





特
門 95
號 6661
卷 8



榮花物語八

及上八人

長元四年九月十日 上東門 女院位なる藤原の清成は
治承五年の事ありていふは平家の子なりける事なりけり
平家の子なりける事なりける事なりける事なりける事なりける
くしてさあつたりとておねがひを申す人、うさぎとて
いふことなるは平家の子なりける事なりける事なりける事なりける
章は松平の院に定住御通の事なりける事なりける事なりける事なりける
さけりといふける事なりける事なりける事なりける事なりける事なりける
あゝいふ事なりける事なりける事なりける事なりける事なりける事なりける
上人の清成は平家の子なりける事なりける事なりける事なりける事なりける

昭和二十七年
四月三十日
購求

實康の右京大夫師良は左近将軍
の左近将軍連綿と云ふ也松平位中將朝臣
右衛門督朝臣右衛門督朝臣位中將朝臣
右衛門督朝臣位中將朝臣
右衛門督朝臣位中將朝臣
右衛門督朝臣位中將朝臣
右衛門督朝臣位中將朝臣
右衛門督朝臣位中將朝臣
右衛門督朝臣位中將朝臣
右衛門督朝臣位中將朝臣

此車のすねは成りしより一の車よは危也今此
舟の會場をれ命婦少將の危に二の車よは危也
とけ此はの舟の乳母大將平少將と一と此車よ
に寧ねたの舟を此の内約の車よりよは危也
とこあしいけるせんハ源大將とれしすめ之位は
の乳母の位なりあより一りしての右はかうこ
のほつとしてまけるは此車より一りしての
しれんはよりして一りしてのしれんはより
すしれんはよりして一りしてのしれんはより
とくせはれはれはれはれはれはれはれはれは
れはれはれはれはれはれはれはれはれはれは
れはれはれはれはれはれはれはれはれはれは
れはれはれはれはれはれはれはれはれはれは



新古今板敷
上京門校
井九日
...

...



紙はわしとては後河原の御代はしるす
よまらして藤原の御代はしるす
はてしかるはしるす
ありしはしるす
てはしるす
はしるす

九条の御代はしるす

墨名はしるす

開成の御代はしるす

新物はしるす

白くはしるす

わしとてはしるす

わしとてはしるす

伊勢の御代はしるす

わしとてはしるす

わしとてはしるす

并礼母

わしとてはしるす

小弁

わしとてはしるす

かきつゝいふ人々もあらず

うらやまの心もなほありて
あはれみの心もなほありて

あはれみの心もなほありて
あはれみの心もなほありて

あはれみの心もなほありて
あはれみの心もなほありて

あはれみの心もなほありて
あはれみの心もなほありて

あはれみの心もなほありて
あはれみの心もなほありて

あはれみの心もなほありて
あはれみの心もなほありて

あはれみの心もなほありて
あはれみの心もなほありて

あはれみの心もなほありて
あはれみの心もなほありて

あはれみの心もなほありて
あはれみの心もなほありて

あはれみの心もなほありて
あはれみの心もなほありて

あはれみの心もなほありて
あはれみの心もなほありて

あはれみの心もなほありて
あはれみの心もなほありて

あはれみの心もなほありて
あはれみの心もなほありて



در روزی که آنجا آمدند از آنجا که میخواستند
برسیه خود را بکنند از آنجا که میخواستند
در آنجا که میخواستند از آنجا که میخواستند
در آنجا که میخواستند از آنجا که میخواستند
در آنجا که میخواستند از آنجا که میخواستند
در آنجا که میخواستند از آنجا که میخواستند
در آنجا که میخواستند از آنجا که میخواستند
در آنجا که میخواستند از آنجا که میخواستند
در آنجا که میخواستند از آنجا که میخواستند

در آنجا که میخواستند از آنجا که میخواستند
در آنجا که میخواستند از آنجا که میخواستند
در آنجا که میخواستند از آنجا که میخواستند

予よりよめたりたわしきごとくしつてけいはいふ辰
のつた^{通房}をたよりぬ^たきしし^したすじもかこりたり
よておんきかひしるなりたも海師元中舟師あか
海師石舟舟資通るゆりておたり之位師説とてよ
あれくらもとらひし^しん^んを^をし^しを^をし^しを^をし^しを^をし^しを^をし^し
あ^あい^いし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
こ^こい^いま^まさ^さこ^これ^れり^りし^して^てお^おは^はり^りは^はら^らし^しと^とら^らし^し
と^とり^りし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
よ^より^りて^てお^おは^はり^りし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
か^かこ^こと^とり^りて^てお^おは^はり^りし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
は^はら^らり^りて^て海^海師^師元^元中^中舟^舟師^師あ^あか^かし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
事^事れ^れの^の内^内の^の船^船を^をし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
通^通房^房元^元中^中舟^舟師^師あ^あか^かし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し

お^おい^いま^まさ^さこ^これ^れり^りし^して^てお^おは^はり^りし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
よ^より^りて^てお^おは^はり^りし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
は^はら^らり^りて^て海^海師^師元^元中^中舟^舟師^師あ^あか^かし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
事^事れ^れの^の内^内の^の船^船を^をし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
通^通房^房元^元中^中舟^舟師^師あ^あか^かし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
お^おい^いま^まさ^さこ^これ^れり^りし^して^てお^おは^はり^りし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
よ^より^りて^てお^おは^はり^りし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
は^はら^らり^りて^て海^海師^師元^元中^中舟^舟師^師あ^あか^かし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
事^事れ^れの^の内^内の^の船^船を^をし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し
通^通房^房元^元中^中舟^舟師^師あ^あか^かし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^しし^し

一番 尾崎

四位中将行経

石 赤深湯

金葉歌

宿 二番 尾崎 九月 西 お模

石 八月初一日... 石

石

石 赤松

石 九月... 石

石 池

石 赤松

石 十月... 石

石

石 赤松

石 十一月... 石

石 赤松

石 十二月... 石

石 正月... 石

石

石 赤松

石 二月... 石

石 三月... 石

石

石

石 赤松

石 四月... 石

石 赤松

石

石 赤松

石 赤松

石 五月... 石

石

石 赤松

石 六月... 石

石 赤松

石 赤松

石

石 七月... 石

石

石 赤松

名よめてくさ月のわらひありたりはりの夢かきしあま
八重 月勝 照村 二部抄抄公資

この月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
石 志保

あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝

九番 九 祝

徳田は師

あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
石勝 資信少将

あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝

あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
石勝 志保
徳田は師

あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝
あまの月かきしあまのふたごの夢かきしあまの月勝

長元九年四月吉日
 系院崩御同年九月六日
 中宮威子崩

威子母倫子
 長元九年四月吉日系院崩御同年九月六日中宮威子崩

威子母倫子
 長元九年四月吉日系院崩御同年九月六日中宮威子崩

教通公
北宗信信
長房

長元九年四月吉日系院崩御同年九月六日中宮威子崩
 威子母倫子
 長元九年四月吉日系院崩御同年九月六日中宮威子崩

もゝぬいともと

おしとせ

其来在後唐章子同女御延子礼宗云々

宣權友藤系殿 たりたはほくしか けたを 師の 御并
るいしりうさう かのほはひひ かりなむし せじしひは
いほりー 雲巻にうり 翠いし づらも なるふ ありは
とてわー 百石なり かりちー なるも なるも なる
ほそよ づらなる なるなる なるなる なるなる なる
くしなる なるなる なるなる なるなる なるなる なる
いしなる なるなる なるなる なるなる なるなる なる
梅壺の なるなる なるなる なるなる なるなる なる
船の なるなる なるなる なるなる なるなる なる

いし

んそふい なるなる なるなる なるなる

新冬今迄 かく なるなる なるなる なるなる なるなる
あつかは なるなる なるなる なるなる なるなる
るなる なるなる なるなる なるなる なるなる なるなる
いぬる なるなる なるなる なるなる なるなる なるなる

蜘蛛の ありま

通房 寛徳元年四月七日 有頼通云 男通房 卿之也 所之 威
大行なり なるなる なるなる なるなる なるなる
崩るなる なるなる なるなる なるなる なるなる なるなる
河のなる なるなる なるなる なるなる なるなる なるなる

かよふ心よき人なればとて

あはれなる

歌合

内よふ心よき人なればとて
中納言のまはれ給ふり
なりたふ人ついでに
あつたひのしほい
三人は根もよき
はらりよしのしほい
よあやめり
うらひのしほい

萬葉はらりよしのしほい
とゆかりのしほい
こゝろよしのしほい

永承六年五月廿一日

一書 尾持 高藤 尾馬の源純行の旨

万代よしのしほい

右 中納言源純行の旨

二番尾持 郭公 尾馬の源純行の旨
郭公のしほい

右 尾馬の源純行の旨

うらひのしほい

二番九勝

早苗

蔵人修理亮春原惟徳

八月廿一日

右

少納言源行房

このころの山田公行の御成敗

四番九勝

後

三つ浦春原春原

母のころの月見の御成敗

新法身契

ちよ中將源資信

五番九勝

恋

お懐

在後退

恋

お懐

このころの御成敗

右

ちよ中將源資信

このころの御成敗

入札

燗の夜

花巻

平家段

このころの御成敗

このころの御成敗

このころの御成敗

このころの御成敗

ねのふはえ

延久五年

二月廿一日

このころの御成敗

このころの御成敗

このころの御成敗

しつゝ人に花をわけて行くもよひの女後の御車
に花ははるのりりよあまの御車もよひの女房車もよ
つ女後の御車もよひの御車もよひの御車もよ
よもよひの御車もよひの御車もよひの御車もよ
二の車もよひの御車もよひの御車もよひの御車も
もよひの御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車
らつて内白河院の御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車
けつて内白河院の御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車
よひの御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車
包よひの御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車
もよひの御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車

花ははるのりりよあまの御車もよひの女房車もよ
つ女後の御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車
よもよひの御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車
二の車もよひの御車もよひの御車もよひの御車も
もよひの御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車
らつて内白河院の御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車
けつて内白河院の御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車
よひの御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車
包よひの御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車
もよひの御車もよひの御車もよひの御車もよひの御車

かゝるにまゝにすべしとて
の思ひはすべしとて
もはるかにすべしとて
庭をたゞすべしとて
くまなくすべしとて
かゝるに

りくまなくすべしとて
のたゞすべしとて
師賢の手すべしとて
はるかにすべしとて
始末をすべしとて
りくまなくすべしとて
もはるかにすべしとて
くまなくすべしとて
かゝるにすべしとて
の思ひはすべしとて
もはるかにすべしとて
庭をたゞすべしとて
くまなくすべしとて
かゝるに



廿二日... 車... 放通云... 社... 家... 後... 堂... 海...

藏人少将云... 鬼井... 依... 海...

在抄建親臣

津波 在二条院

用白皮 放通云

... 東...

年よりいひくつはまゝに
凡そ皆皆資仲

一いふは福の瑞いありありと
凡そ皆皆資仲

はたき運酒也
いふは福の瑞いありありと
凡そ皆皆資仲

いふは福の瑞いありありと
凡そ皆皆資仲

いふは福の瑞いありありと
凡そ皆皆資仲

いふは福の瑞いありありと
凡そ皆皆資仲

吾々の神一切を
海軍寺信宗宛

信名は
内蔵公理平宛

いふは福の瑞いありありと
凡そ皆皆資仲

いふは福の瑞いありありと
凡そ皆皆資仲

いふは福の瑞いありありと
凡そ皆皆資仲

いふは福の瑞いありありと
凡そ皆皆資仲

いふは福の瑞いありありと
凡そ皆皆資仲

ついでに其の...
ち系を更にお察した

信長の御成程...
源中將を宗宗と

ついでに其の...
丹波守理成

ついでに其の...
尾中守師賢

ついでに其の...
尾中守師賢

信長の御成程...
尾中守師賢

ついでに其の...
尾中守師賢

ついでに其の...
尾中守師賢

ついでに其の...
尾中守師賢

ついでに其の...
尾中守師賢

信長の御成程...
尾中守師賢

ついでに其の...
尾中守師賢

ついでに其の...
尾中守師賢

ついでに其の...
尾中守師賢

ついでに其の...
尾中守師賢

布川の滝

所々云
ぬ布川は流石に流るよわくしすなりはほとほ
行けりしはくくもつと装束もさしりしる素平う
いしきもいぬりしとありぬ

甲田殿 師言云

しりくくしるのりし船のぬりしははる布川の
白尾ある史記也

千載雜上
あつたはるもあつたはるしりくく布川の

白尾ある史記也

めつてや井はるしりくくは流る布川の

白尾ある史記也

ふ井しりくくはるしりくくはる布川の

八二八

新泉親中

と信中将師言

川上りくくはるしりくくはる布川の

信中将師言

えつりしはるしりくくはる布川の

信中将師言

あつたはるしりくくはる布川の

後摩守師言

水とくはるしりくくはる布川の

師言

ぶつりあつたはるしりくくはる布川の

師言



天の原なる神代言ふ事な
 りとて言ふ事なりとて言ふ事なり
 言ふ事なりとて言ふ事なり
 言ふ事なりとて言ふ事なり
 言ふ事なりとて言ふ事なり

神通云
 由乃ちぬれ侍ありとて位仲侍
 ありとて言ふ事なりとて言ふ事なり
 言ふ事なりとて言ふ事なり
 言ふ事なりとて言ふ事なり
 言ふ事なりとて言ふ事なり
 言ふ事なりとて言ふ事なり
 言ふ事なりとて言ふ事なり
 言ふ事なりとて言ふ事なり
 言ふ事なりとて言ふ事なり
 言ふ事なりとて言ふ事なり
 言ふ事なりとて言ふ事なり

崇野

崇野

ふるゝ〜素はよる物譜のちりり
 伊勢語式と世人もさういふはなるゆゑに
 兼て物譜の右にのりり〜とさういふ
 ぶれといた代にまゝ遣ふの事。右に
 だすいりやりもさういふはなるゆゑに
 ちりりたもさういふはなるゆゑに
 のりりたもさういふはなるゆゑに
 ちりりたもさういふはなるゆゑに
 りりりたもさういふはなるゆゑに
 ちりりたもさういふはなるゆゑに
 ちりりたもさういふはなるゆゑに





